

人権啓発講演会

10月23日、あいぴあ泉南で「2023人権啓発講演会」を開催しました。「人権問題にかかわる市民意識の現在(いま)」をテーマに、令和4年に実施した「泉南市民人権意識調査」の結果に基づき、同調査の分析等に関わっていただいた石元清英さん、内田龍史さん、神原文子さんの3人の学識経験者から報告をいただきました。



きずな

第24号

2024年5月

<発行>
泉南市民人権啓発
推進協議会

バックナン
パはこちら



講演会は令和4年秋に実施した「泉南市くらしやすいまちづくりに関するアンケート」から得た1千人近い市民の回答を集計、その内、『人権問題にかかわる市民意識』の調査結果を3人のパネリストが分析した報告会という形式で、泉南・阪南・岬2市1町の事業所人権連絡会の合同研修会を兼ねて開催されました。当日は100人を超える参加者があり、開演前から会場は熱気に溢れていました。

ジェンダーやダイバーシティ、LGBTQなど、『人権問題』は近年、国内外のニュース報道は勿論、テレビドラマや映画、SNS等でも度々取り上げられるテーマです。本講演会も普段の講演会と違い、20代・40代の参加者が46%と半数近くを占め、若年から現役中堅までの世代の関心の高さを感じました。

パネリストのお話も三者三様、独自の切り口で調査結果を分析し、それぞれ問題意識を報告していただきました。特に部落差別問題、同和問題については、①結婚相手の出身地、②住まいを選ぶ際の地名・字(あざ)や

来歴、③将来子どもが入学する小学校の校区、このようなことをどのくらい気にしたり、調べたりするか?を、性別・世代別に分析し、

当市で暮らす・暮らしたいと思う人の生活の根幹にかかわる事象に触れ、「私たち市民一人ひとりに何が出るのか?」という、今後の課題を取り上げていただきました。

終了後のアンケートでは、講演の内容の良し悪しとは別に、①会場の明るさや配布資料の見やすさ、②講演を踏まえた上の学び方、③参加しやすい曜日や日時などについても様々な意見があり、改めて参加いただいた方々の意識の高さを感じた講演会でした。

(西信達校区 柿本繁雄)

泉南市くらしやすい まちづくりに関する調査

■調査の目的:この調査は、市民の人権問題に関する意識等を把握し、今後の人権行政を推進していくうえで基礎資料を得ることを目的に実施しました

■調査対象:16歳以上の市民3,010人(年代別の回答者数を平準化するために、10歳代から70歳代以上の7区分で各区分430人ずつ抽出しました)

■調査方法:郵送で調査票を配布、郵送またはインターネットにより回答

■調査期間:R4年9月26日～10月11日

■有効回答数:975件(32.4%)

■調査内容:・さまざまな人権問題に関する考え方について・差別や人権尊重に関する意識や考え方について・人権侵害を受けた経験について・人権に関する学習について・部落差別(同和問題)について

【参加者の声】
◆「差別は人間がつくったものだから差別をなくすことができる」と言われたことで、自分が何をすべきかということを考えました。「希望を語る」ことを子どもとともにしていきたいです。
◆統計をもとに人権の現状や問題を考えていくのは初めてだったので、新たな講座だなと感じました。

◆人権の大切さを学びました。差別に反発できるように心がけたい。
◆人権に対する意識は社会の影響がとても大きいと常々思っているのですが、今日のお話を聞いて、その思いに確信が持てました。今の日本では自己責任論の影響で10代の若者の意識に影響を与えていることに危機感を持ちました。
◆アンケートの結果や分析の内容からこれまでの成果や課題を明確にし、新たな課題解決に向けて取り組んでいく必要があると感じました。

～絆・今年もたくさんつながりあいました～

2023人権週間

12月4日～12月10日は「人権週間」です。今年も人権週間にちなんださまざまな行事(人権作品展、イオンイベント「みんなのカフェ」など)が開催されましたので、紹介します。



『人権作品展』

11月21日(火)～26日(日)、イオンモールりんくう泉南・イオンホールにて、市内の保育園所、認定こども園、幼稚園、小・中学校の子どもたち、識字教室のみなさん、また市民の方々にご応募いただいた「じんけん写真・標語」や絵画、書道などの作品を展示した人権作品展が開催されました。

自分たちの作品を見に来た園児たちもちよつぱり誇らしげな笑顔を見せてくれていました。休日にはご家族で来場され、会場中の作品の中から自分の絵を探して紹介するお子さんもいるなど、期間中は約一七〇〇人の幅ひろい世代の方々にご来場いただき、人権の大切さについて考えていただける機会となりました。

【参加者の声】

◆子どもたちの作品に元気をもらいました。子どもたちの声を聴き、頼られる存在になりたいと思います。

◆子どもたちの作品展を毎年楽しみにしています。多くの人が子どもの人権に関心を持ち、子どもが守られるまちになればいいなと思います。

◆人権作品展、毎年拝見しています。子どもたちの共同作品や習字や標語、改めて人権について学び、考える機会をいただいています。

◆子どもたちの作品からパワーがもらえる気がします。

イオンイベント「みんなのカフェ」

11月26日(日)には、作品展と同じ会場で「みんなのカフェ」が開催されました。オープニングでは、ちやおの会(在宅の知的障害者本人の会)によるミニコンサートが行われ、「想い出がいっぱい」など2曲を緊張しながらも熱唱され、会場を温かな雰囲気包み込んでいただきました。

続いて、檀野俊さん(陸上十種競技選手)に、「命の使い方」～自分の人生に責任をもつということ～をテーマに、25歳で脳腫瘍の摘出手術を受け、壮絶な闘病生活とリハビリを経て、後遺障害と向き合いながら競技復帰を果たされた半生についてお話いただきました。そして、障害があるからといって夢をあきらめるのではなく、目標を持ち続け、前を向く気持ちを大切にしてほしいと力強いメッセージを届けてくださいました。

【参加者の声】

◆コンサート、元気いっぱい頑張つて歌う姿に感動しました。檀野さんの講演はパワフルで自分も頑張ろうと思いました。

◆檀野さんのお話し大変良かったです。夢がかなうよう応援しています。

鳴滝校区人権協が始動！

令和5年10月12日(木)、市立市民交流センターにおいて、鳴滝校区人権啓発推進協議会の設立総会が開催されました。

設立総会では、規約や今後の事業・予算計画を審議、原憂子さんを校区委員長に選出し、新体制での活動をスタートさせました。

また、人権を尊重する活動を地域の隅々まで浸透させ、地域に根づいた市民運動として、定着させるため、他の校区人権啓発推進協議会や関係機関と連携して、「人権尊重のまちづくり」に取り組んでいくことを確認しました。



人権週間「市民の集い」

2023人権週間「市民の集い」。今年はABC委員会をはじめとした民間団体との共催イベントとして開催されました。

映画『破戒』を上映 講演『破戒から考える部落問題』

十二月三日(日)、文化

ホールで人権週間「市民の集い」が開催されました。今年は泉南市ABC委員会、国際ライフパー トナー(株)(文化ホール、あいびあ泉南指定管理者)等との共催イベントとして開催。終日、館内物販、キッチンカー、縁日屋台等、大勢の家族連れでにぎわいました。午前中は太鼓や吹奏楽、ダンス等、各種市民団体による演技・演奏発表。



午後からは100年余り昔の明治時代に顕在した部落差別について描かれた島崎藤村の不朽の名作『破戒』の映画上映と、宮前千雅子さん(関西大学人権問題研究室委嘱研究員)には、『破戒から考える部落問題』をテーマに講演をいただきました。



講演では、映画の内容や場面をふり返りながら、当時の社会背景や部落差別の実態、そして今なお存在する差別事象についても触れていただきました。そして、宮前さんは、

「この社会から差別をなくすためには、いろいろな人たちの力が必要です。みなさんには、ぜひ一緒に頑張って考える人になってほしいと思います」と力強いメッセージで講演を締めくくられました。

【参加者の声】

◆共催事業ではいろいろな団体の演技発表があり、幅広い年代の方がたくさん集まって良かったです。人権週間、人権についての啓発も多くの方々にできたと思う。映画、講演を通じて部落差別について改めて考える機会になりました。

◆午前の部では、いろいろな発表を楽しむことができました。キッチンカーも良かったです。映画・破戒と講演ではわかりやすく人権について学ぶことができました。

◆いわれなき差別、今も苦しんでいる人がいるということ忘れてはいけなさと感じました。

人権週間 駅頭啓発

11月24日(金)、「人権週間」の駅頭啓発を市内4駅(JR和泉砂川駅、新家駅、南海樽井駅、岡田浦駅)で、早朝の約1時間、山本市長、人権啓発推進協議会役員、市職員らが通勤や通学する市民の皆さんにポケットティッシュを配布し、人権尊重のまちづくりを呼びかけました。



◆映画を観て、今まで偏見でいた自分を恥じています。これからは知識を深め、勉強したいと思いました。

◆正しく学ぶこと、知ることがいきる力になること、あきらめないことなど、最後の子どもたちの言葉がとても印象に残りました。

◆映画を観て、宮前さんの講演を聴かせていただき、部落問題についてより深まる機会となりました。中学生の子どもも参加しましたが、何かを感じとってもらえたかと思っています。家で話し合っています。

◆破戒を観られた方や宮前さんの講演を聴かれた方々が、それぞれ自分事として考えることができるとなる時間になったのかと考えました。多くの方々に人権問題を自分事として考えてほしいです。



泉南中学校校区の集い

11月18日、泉南中学校でJERRY BEANSさんを講師にお迎えし、元不登校バンドがおくる心の授業と題して、講演ライブが開催されました。

小学校から中学校まで不登校を経験したメンバーたちが出会い、音楽を通して自分らしくいられる場所を見つけることができたというお話しやありのままの自分を認めてあげることなど、心に響くメッセージを歌声とともに届けていただきました。

本当の不登校、ひきこもりを知っていますか？ JERRY BEANSがおくる心の授業

『校区の集いに参加して』

十一月十八日(土)午前9時半
11時、あつという間の楽しい時間でした。

元不登校の生徒だったメンバーがいろいろな苦難を乗り越えて立ち上げた音楽バンド「JERRY BEANS」さんに、音楽活動を通して「心の授業」をしていただきました。

心の授業では、舞台中央の大型スクリーンに映し出される映像には、テロップ(文字情報)をつけて歌ってくれたので、しっかりと意味が伝わ



ったと思います。そして、メンバーの方々がどれほどの勇気をもって「JERRY BEANS」を立ち上げられたか、それぞれにそつた仲間を見つけたことにも感動しました。そして、行動を起こされたことに感謝したいと思います。

詩人・金子みすゞさんの言葉に「みんなちがって、みんないい」があります。多様性を認め合える「共生社会」、「包摂的社会」をどのように築いていくか、みんな考えていかなければならないと改めて感じました。また、私が大好きな詩にもありますが、「若々しい生命の放つ輝きほど美しいものはない、皆さんは気づかないかもしれない、青春そのものが最高の美なんです。」本当に楽しい時間をありがとうございました。(鳴滝校区 原夢子)



【生徒さんからJERRY BEANSさんへのお手紙】

◆私も人の目が気になって、自分の見た目や自分の言った事が変じゃないかな？とか嫌な気持ちになつていなか？などと考え過ぎてしんどくなってしまう事が多かったんですけど、お話や歌を聞いて大丈夫って思いました。

◆メンバーの人たちの話はとても心にひびきました。これからは自分の心の声を大切にしたいと思いました。これからもたくさんの人を助けていってください。

◆自分も自信は無いけれど、

中学生生活を後悔なくすごしたいと思います。

◆曲と話を聞いて自信をもつて生きていこうと思いました。「苦しい！」と思ったことがあったのですが、話をきいて、これから大切に生きていこうと思いました。

◆普段は普通に過ごしていても、本当は悩んでいる人がいたり、本当は学校に行きたいのに色々な理由で行けない人がいることを知りました。私もそんな人に声をかけて支えられるようになりたいと思いました。

◆お話を聞いて一人で背負いすぎかな？もうちょっと友だちを頼ってみようかなって考えさせられました。

◆自分のまわりに人がいてくれることはありがたいことなんだと改めて確認できました。

◆不登校の人の気持ちが少し分かったような気がします。その子たちともっと仲良くできそうない気がします。

◆すごく悩んでいましたが、人の目なんて気にせず、自分らしく生きていこうと思いました。

◆私も頑張りました、人と比べてしまうことがあるので、自分自身をしっかりと見つめ、休みたいと思ったときは休もうと思ったし、自分も誰かの支えになりたいと思いました。

編集後記

『きずな』24号はいかがでしたでしょうか。1年に2回発行しておりますが、内容によっては少し前の事と感じられる面もあるかもしれません。

行事への感想や、それぞれの人権への思いなど、今後の糧となるよう、約半年分の出来事や情報を基にみんなで人権を考え、伝え、学ぶこととなっております。今後とも絆がさらに広がる事を願って、皆様の投稿やご意見をお待ちしております。

編集委員(賀)